

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島南小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となり、今年は理科も調査しました。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国とほぼ同程度であり、一定の定着がみられます。特に話し言葉と書き言葉との違いの理解や漢字の読み書きがよくできます。一方で「書くこと」については文章に対する感想や意見を伝え合うための記述や「話すこと・聞くこと」については互いの立場や意図を明確にしながらかし合い、自分の考えをまとめることに課題がみられます。
- ・算数の平均正答率は全国より高く、全体的に高い定着がみられます。特に「数と計算」について目的に合った数の処理の仕方がよくできています。一方「変化と関係」について、伴って変わる2つの数量の比例の関係をとらえ、未知の数量の求め方を記述で答えることに課題がみられます。選択問題に比べ記述式の問題に課題がみられます。
- ・理科の平均正答率は全国よりやや低く、少し課題がみられます。特に「生命」について昆虫の体のつくりや「粒子」について自然の事物・現象からの情報を分析し自分の考えを記述することに弱い傾向がみられます。
- ・全体的にどの教科も全国とほぼ同程度という結果でした。計算処理や漢字、実験器具についての基礎的な理解や知識は定着してきています。一方、記述問題に関して正答率が低い傾向がみられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさをいかして解決方法をきめていますか」「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考えて、自分から取り組んでいましたか」について高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」について低い数値を示しています。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・「書くこと」（記述）については、学習や生活の中で書く力を身につけさせるといった目的意識をもち、自分の考えや伝えたいことを書いて表現する活動を積極的に取り入れていきます。
- ・地域や郷土に関する学習の推進や地域と関われる行事や機会を設定していきます。
- ・自主・自立・自治といった自分（自分たち）で考え判断し、表現していく力をこれからも大切にします。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・携帯電話やスマートフォン、コンピュータの使い方の約束を引き続き守り、家庭学習についても声かけをお願いします。
- ・将来のことや今気になっていることなど子どもたちがどんなことを考えているのか会話をしてください。